



地域とともに育つ学校づくりを推進 コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、保護者や地域の皆さんが学校運営に関わることで、よりよい教育環境を築いていく取り組みです。平成31年度までに市内すべての小・中学校での導入を目指す本市は、県内でも先進地域となっています。すでに始まっている4校の事例を紹介します。



鳴瀬未来中学校

地域の魅力を感じてほしい 職業人の話を聞く会

鳴瀬未来中学校では昨年度から2年生を対象に「職業人の話を聞く会」を実施しています。これは生徒に職業に対する幅広い知識を持ってもらうとともに、11月に行う職場体験学習への意欲を向上させる目的で取り組んでいます。話を聞く会では、地域のさまざまな職種の方々が講師となり、仕事のやりがいや魅力、地域との関わりや将来の展望などを生徒たちに説明します。同校の学校運営協議会の会長を務める櫻井一義さん(左の写真)は「地域で働く人たちがどんな思いを持ってふるさとに貢献しているのかを知ることが子どもたちにとって非常に重要。継続的に実施し、子どもたちと地域との関わりも育んでいきたいです」と話していました。

地域協働で子どもたちを見守る

交通安全ボランティア



大塩小学校

大塩小学校では、コミュニティ・スクールが始まる前から地域ボランティアの協力を得て子どもたちを育てています。登校時間に通学路に立つ「朝の交通安全ボランティア」も地域協働で長年継続している取り組みです。子どもたちを見守るのは学校安全ボランティアの大崎孝二さん(78)をはじめとした地域の皆さん(左の写真)。晴れの日はもちろん、雨の日も風の日も毎日実施しています。児童たちも姿を見つけると一目散に駆け寄って「おはようございます!」と大きな声であいさつを交わします。皆さんの生きがいにもつながっており、大崎さんは「摘んできた花をプレゼントされたり、感謝の手紙をもらったり、子どもたちから癒やしと元気を受け取る毎日です」と話していました。

鳴瀬桜華小学校

ふるさとの食材に理解深めよう

農家の皆さんがそばの種まき指導

鳴瀬桜華小学校は、栽培や調理などを通して市特産品の「そば」に対する関心と興味を高め、食と農に対する理解を深める取り組みを総合学習の一環で行っています。8月29日には、学校裏のほ場で3年生43人がそばの種まき体験に汗を流しました。

地元の農家の方々が構成するそばの生産・販売会社(株)つつみと、JAいしのまき女性部鳴瀬地区の皆さんを講師に迎え、種の植え方などの指導を受けました。約1時間の作業では、種を撒いた後にレーキで土をならし、全員で成長を願いました。

10月下旬に刈り取りを行ない、11月には石臼を使ったそば粉作り、12月にはそば粉を使った調理実習を行う予定です。

復興の森動植物とふれあい

地域を知り 夢を育む

宮野森小学校



宮野森小学校では、子どもたちの夢を膨らませて育てる教育活動として復興の森や地域性を活かした教育に取り組んでいます。このうち3年生は総合的な学習の時間を活用して「復興の森での動植物とのふれあい授業」に取り組んでいます。この授業では、地域おこし協力隊で同校の学校運営協議会の委員も務める神吉雄吾さん(右の写真)らがサポート役として関わっています。「雄吾さん!カブトエビ捕まえたよ!」。森には子どもたちの楽しそうな歓声が響きます。神吉さんは「なぜ復興の森と呼ばれるのか。経緯経過、先輩や地域の人たちの努力なども子どもたちに伝えていきます。子どもたちの発想力は無限大。自然からたくさんのお話を学べるように、今後も関わっていききたいです」と話していました。